

# 日本人留学生の中国語作文調査

顧 偉坤（上海外国語大学）

中野 洋（国立国語研究所）

## 1. 調査の目的

第二言語習得における母語干渉、自国文化による影響は作文の中ではどういう形で表現されているか、その実態はどうなっているかが本調査の目的である。このため、中国にいる日本人留学生（23人）の中国語作文を対象に調査を行った。

調査の結果、中国語の動詞、（時）態、助数詞、副詞、介詞、表記法、可能態、形容詞など（頻度順による、表1を参照）に問題が見られるが、典型的な例は、次の通りである。

## 2. 誤用例の分析

誤用例は上記のように分類して分析した。下線の引いた語は問題のあるもので、（）内はもとになったと思われる日本語表現である。太字はあまり適当でない場合の印である。

印の後には直した表現である。その原因は [解説] をによって説明する。

### 2.1. 動詞と関係のある間違い

中国語作文では頻度の一番高い間違いは動詞（48.6%）だが、次は間違いの性質により分類したものである。

#### 2.1.1 動詞との組み合わせの間違いによるもの

- a. 人民被分开富豪。中级。低级。贫民四个阶级。（～に分ける） 分成  
[解説] 「分开」は一つのを二つにする場合に使うが、この文では、結果が四つあるので「分成」を使ったほうが適当である。
- b. 这就是他们过假日的习惯。（休日を過ごす） 度假  
[解説] 「过」は暮らすという意味で、普通は「活」「日子」と組み合わせる。この文では「过」より「度」のほうが適当と思うが、単音節組み合わせの制限で「假日」は「假」に直した方がよい。
- c. 小佳和小邪都毕业了小学。（卒業した） 小学毕业了  
[解説] 「毕业」は自動詞で、「小学毕业、中学毕业」という語順で使われる。「毕业」を目的語の前に持っていくと介詞「于」が必要である。例えば、「毕业于中山中学」はその例である。
- d. 观众们都感动他们拼命的拳击。（～に感動される） 他们的拼搏精神感动

## 了观众

[解説] 中国語の「感动」は大体外界の影響を受けて心に何か充足感を覚えることである。ここでは何かを見てから「感动」という形になっているが、この文脈ではその関係はあまりはっきりしていない(つまり誰が感動されたかは曖昧になっている)から、直す必要がある。

### 2.1.2 否定の間違いによるもの

- a. 小佳想没有跟他交流的手段。(～と交流の手段がない) 没法跟他交流

[解説] この文は日本語の直訳のようだ。「没有」は副詞で動作或いは状態発生の否定だから、この場合は「没有」は使わないで「没法」を使ったほうがよい。

- b. 因为他没有什么做坏事。(何か) 没有做什么坏事

[解説] 「没有」は動詞否定用の副詞だが、いつも動詞の前に来るから、「什么」を「做」のあとに移動すれば上記の問題は解決できる。

- c. 不要日本人对中国菜批评, 不要中国人对日本菜批评。(～に対して)  
日本人不要批评中国菜, 中国人也不要批评日本菜。

[解説] 中国語では「不要」は「要らない」という意味だが、作者は助動詞の「要」を動詞の「要」と間違えて、文の意味を曖昧にしたのである。実はここでは「批判してはいけない」という意味なので、直す必要がある。

### 2.1.3 動詞(二つ以上)の組み合わせ間違いによるもの

- a. 我们为了参加留学生文化节练习中国传统的跳舞的时候, 阿芳担任我们的班长。  
( ) 练习跳中国的传统舞蹈

[解説] 中国語では動詞が目的語になる場合もあるが、これは二つの動詞が出る時に限る。この文では目的語になる「跳(舞)」は動詞で名詞に修飾されているのが問題になったのである。

- b. 我们日本人去外面吃饭时点我们能吃多少, 不点很多菜。(食べられる量を注文する) 吃多少点多少

[解説] この文は日本語直訳のようである。ただし、数量の不定を表す「多少」は、上記の表現で使えないと思われる。つまり、バランスがとれていない。

- c. 有的日本留学生对我说, 我喜欢起来中国菜。(～てくる) 喜欢起中国菜来了

[解説] 「起来」は、動詞・形容詞の後に付くと動作が「～し始める、または、～し続ける」という意味になる。ただし、目的語がつく場合はその真ん

中に入られることがある。ここでは目的語を入れる必要がある。

#### 2.1.4 誤解によるもの

- a. 可是常常想一想母亲作的菜。(思う) 想起

[解説] この場合は「思い出す」という意味になるはずだが、「思考」という意味の言葉と間違えているので、直す必要がある。

- b. 但是日本全国人民都认识枚方大菊花娃娃展览会。(知る) 知道

[解説] 中国語では「认识」は人とか道を知っている場合に使う。具体的なことについては「认识」は使えないので、「知道」を使うべきである。

#### 2.2 「時態」助詞の間違いによるもの

中国語の「時態」を表す助詞は「了、着、过」などである。そのうちよく使われるものは「了」のようだが、「了」の使い方はまだ普遍性をもっていないため、注意しないと間違いやすい。

- a. 小佳和小邪吓得说不出话。眼睛团团地看了他。(～た) 眼睛直愣愣的看着他

[解説] この助詞「了」は動作の完了を表す。文脈から見ると持続態のはずなので助詞「着」で入れ替えればいい。「团团地」は動作の場合には使うが、目つきの場合には使えない。

- b. 国王过了奢侈的生活。每天设了宴会。(～た) 过着  
设宴

[解説] 動詞のあとに「了」がつくと動作の「完了」を表す。ここでは昔の王様の生活の様子を再現するため「持続」態「着」が必要である。また「谱切」の場合は前に「每天」があるので、助詞が省略できる。

- c. 她说：“我会做。下次做给你们吃。”我们听(?)很高兴。了

[解説] ここでは一つの動作が終わったらもう一つの動作或いは事柄が発生するという文脈である。二つの動作とつながる助詞「了」を用いていないので入れる必要がある。

- d. 以后柯南当伯克利国的国王。国民过了幸福的日子。(過ごせる) 过上了

[解説] ある「動作・事柄」が実現する場合はただ「了」だけでは足りない。「目的を達成する」の「上」が必要である。

#### 2.3 助数詞

中国語においては助数詞は慣用的な使い方が多いようである。とくに、一つの対象に二つ以上の使い方がある場合、間違いは出やすい。

- a. 我们的楼房一共有6楼。外部的颜色是深红。( ) 层  
 [解説] 「层」は建物の階層を数える場合に使う言葉である。具体的な階層を指定するときには「楼」を使う。例えば、「在6(层)楼」。
- b. 这( )比赛一共进行三场。(この) 次  
 [解説] 「这」は「代名詞」である。名詞と助数詞とともに使う場合は近くの事柄を指す。ここでは「今回」という意味で「次」が必要である。
- c. 那个马的上面有一个穿漂亮衣服的人。(あの) 匹  
 [解説] 馬を数える場合は「匹」でなければならない。
- d. 第一观光地的鞍山市千山风景美丽。规模宏大。风光明媚。是一种名山。  
 (一种) 座  
 [解説] 「种」は分類する場合に使う単位である。ここでは「座」のほうがいい。
- e. 下山途中。我认识一个剪纸师。(一人) 位  
 [解説] 人間を数える場合「个」も使えるが、ここでは後ろの「~师」と合わないなので、やはり敬意を表す「位」を使った方がいい。

## 2.4 表記法の間違い

表記法では日本語をそのまま使っている語彙はあまり多くない。主に発音の間違いによる誤用である。

- a. 她能把舞蹈老师说的话马上翻译成日语和英语。(舞蹈) 舞蹈  
 [解説] 「舞蹈」は中国語にはないようである。これは日本語からそのまま持ってきたのかもしれない。
- b. 王方姐姐现在在外国企业做电脑的工作。(脑) 脑  
 [解説] 同上
- c. 一会儿他志了自己的工作赶快回家去了( ) 辞  
 [解説] たぶん「志」と「辞」との発音ははっきり区別できないので、「辞」を「志」と間違えたのだろう。
- d. 她对我打道呼。当起我觉得很奇怪。( ) 招、  
 ( ) 时  
 [解説] cと同じ原因。
- e. 如果有钱我们日本人要储备。不要乱费。(乱費) 就储蓄。不乱花  
 [解説] この「乱費」は日本語そのまま使っている。また、「要~不要~」は意

志を表す場合に使う。「習慣」としては使わない。

## 2.5 可能態

可能態は助動詞「会」と「能」のほかに、助詞「得」「不」などがある。ただし、決まった文型に使うが、bの間違いはこの類のようである。

- a. 因为她不但汉语而英语也会说得很流利。(できる) 能  
[解説]「会」と「能」はともに能力を表す助動詞である。しかし、ある程度(流利)を表す場合は「能」しか使わない。
- b. 我还是不会确实的说“上海人是这样?”(できない) 说不清楚  
[解説]「不会」とは能力がないことをさす。ここでは自信がないという意味なので、「不会」は使えない。
- c. 但一般我的看法来说不成为朋友。(～になれない)  
但一般(按)我的看法来说不是朋友  
但一般(按)我的看法来说不能成为朋友  
[解説] 動詞「成为」は「～になる」という意味で、普通「不」で否定はしない。ただし、「不能」の場合は「允许」(許可)の意味が入っているからニュアンスが違う。

## 3.まとめ

上記の調査によると間違いが起こった原因はほぼ次の4種類である。

品詞の属性(自・他・動・副など)をはっきり知らない。

語順を正しく並べられない。

語彙量が少ない。

母語干渉など。

もし品詞の属性が分からないければ正しく使えない。分からないまま使えば文の意味を間違えるのはもちろんのこと、意味が曖昧になったり、逆の意味になったりする。

要するに、この調査の結果から見ると、正しく表現できない大きな障害の一つは平均語彙数(25%)が少ないことのようなのである。つまり、自由に選択できる語彙が少ないので上記の間違いが起こりやすく、母語の干渉もおこりやすくなるわけである。もし勉強によって、語彙の数が増やれば間違いはなくなり、母語干渉も少なくなると思われる。

表1 誤りの頻度表

項目	動詞	(時)態	助数詞	副詞	介詞	表記法	可能態	形容詞	合計
頻度	52	17	9	8	7	5	5	4	107
%	48.6	15.9	8.4	7.5	6.5	4.7	4.7	3.7	100

## 参考文献

- 吕淑湘 (1980) 『现代汉语八百词』 (商务印书馆)
- 孙德宣 (1985) 「助词和叹词」 (『汉语知识讲话 (シリーズ)』上海教育出版社)
- 孙全洲等 (1995) 『现代汉语学习辞典』 (上海外语教育出版社)
- 顧偉坤 (1991) 「「了」とそれに対応する言葉をめぐって」 (日本語教育国際シンポジウム)